

# CASBEE® - 建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西日本シティ銀行 室町支店	階数	地上11F
建設地	福岡県北九州市小倉北区室町2丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	150 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、ホテル、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年5月 予定	評価の実施日	2015年11月16日
敷地面積	859 m <sup>2</sup>	作成者	松本拓也
建築面積	617 m <sup>2</sup>	確認日	2015年11月18日
延床面積	4,663 m <sup>2</sup>	確認者	定森淳一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ・室内環境への配慮、サービス性能の確保を行う。 ・緑地を設け室外環境への配慮を行い、省エネルギー性能の向上にも努めている。 ・資源の確保に努め、敷地外環境への配慮も行っている。		0
<b>Q1 室内環境</b> ・開口部遮音性能に配慮している。・断熱性能等級4の取得など、外皮性能に配慮している。・高い屋光率を確保している。・4☆☆☆☆を採用し、空気質環境に配慮している。・高い換気性能を確保している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・1人9m <sup>2</sup> 以上の執務スペースを確保している。・事務室天井高は2.90m以上と、広さ感、景観に配慮している。・耐用年数の長い部品、部材を採用している。・階高、壁長さ比率の確保に努めている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・外構緑化指数23.3%を確保している。 ・中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が30%を超える。
<b>LR1 エネルギー</b> ・高性能断熱材、複合ガラス採用等、建物の熱負荷抑制に配慮している。・LED照明等の高効率設備機器の採用に努めている。・中央監視設備の設置を行い、省エネルギー化などの実現を目的とする。・居住者に設備毎の取扱説明書を渡し、省エネに関し一般的な説明を行う。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型水栓に加え、節水型便器の採用等、節水に配慮している。・LGS地下を採用、フリーアクセスフロア、可動間仕切り切の採用など、解体時におけるリサイクルを促進する対策を行っている。・防水工事のプライマー採用等、化学物質の使用削減に努めている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・LCCO <sub>2</sub> 排出率85%と地球温暖化に配慮している。 ・光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たし、広告物照明無しなど光害の抑制に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される